

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<13週> インフルエンザ、感染性胃腸炎 - 順調に定点当たり報告数が減少している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<インフルエンザ> 2001/2002シーズンは、ピークの定点当たり報告数としては過去10年間で3番目に小さい流行



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - インフルエンザ / 感染性胃腸炎



速報
P.6-8

市内一円で発生した *Salmonella* Enteritidis 食中毒の集団発生事例 - 豊橋市



海外感染症情報
P.9

英国の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 / ブルキナファソの髄膜炎菌感染症 - 更新 / 他



感染症の話
P.10-13

ツツガムシ病
ダニの一種ツツガムシによって媒介されるリケッチア症であり、汚染地域の草むらなどで感染する



読者のコーナー
P.14



グラフ総覧(13週)
P.15-21



13週のデータ
P.22-29



発生動向総覧

第13週コメント 4月5日集計分

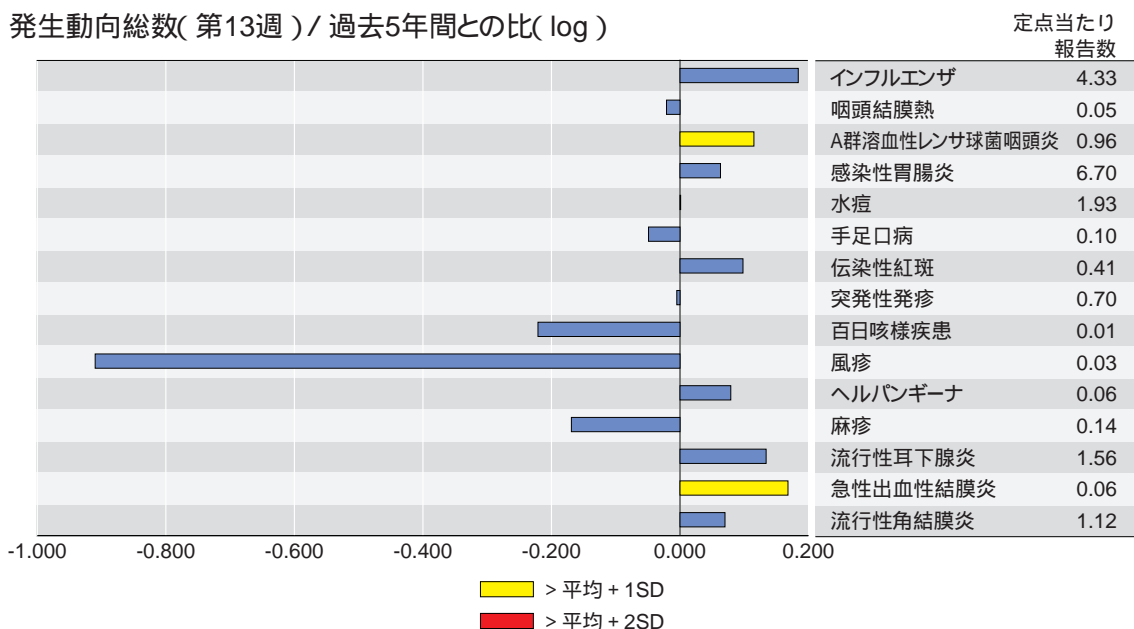
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(推定感染地:タイ)、細菌性赤痢19例(推定感染地: 国内6例、インド、ベトナム、カンボジア、インドネシア、タイ各2例、ミャンマー1例、不明2例。国内感染例のうち3例は山形県からの報告で、10、11、12週にも報告のあった県内の小学校における集団発生事例に関連している。) パラチフス1例(推定感染地:インドネシア)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症9例(うち有症者4例)
- 4類感染症: アメーバ赤痢1例、オウム病1例、クリプトスポリジウム症1例
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例
ジアルジア症3例(推定感染地:イタリア、パラグアイ、不明各1例)
デング熱1例(推定感染地:インドネシア)、破傷風2例、レジオネラ症1例
急性ウイルス性肝炎12例 A型9例
 B型1例(感染経路:不明)
 C型1例(感染経路:不明)
 不明1例
後天性免疫不全症候群9例(AIDS 5例、無症候性キャリア2例、その他2例)
 感染経路:性的接触8例(異性間6例、同性間2例)、不明1例
梅毒5例(早期顕症2例、無症候3例)
マラリア1例(熱帯熱マラリア1例)_推定感染地:ケニア)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

インフルエンザは新潟県と宮崎県で定点当たり報告数が10を超えており、東北・北陸地方でやや定点当たり報告数の多い県がみられるものの、全国的には終息の方向に向かっている(インフルエンザに関する詳しい情報は、4ページ「注目すべき感染症」参照)。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。感染性胃腸炎は福井県(定点当たり報告数13.9)と宮崎県(16.9)で多く、その他、鳥取県、佐賀県、大分県、鹿児島県で定点当たり報告数が10を超えている(感染性胃腸炎の病原体については5ページ参照)。水痘は沖縄県で定点当たり4.8の報告がある。麻疹は全国的に見ると定点当たり報告数は例年にくらべ低い値となっているが、愛知県で第13週に90例の報告があった(定点当たり報告数0.5)。急性出血性結膜炎は長崎県で定点当たり1.6の報告があり、全体として過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がやや多くなっている。流行性角結膜炎は山口県で定点当たり報告数4.4と多くなっている。

発生動向総数(第13週)/過去5年間との比(log)

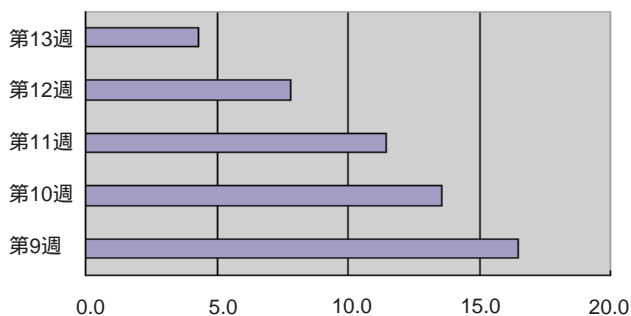


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

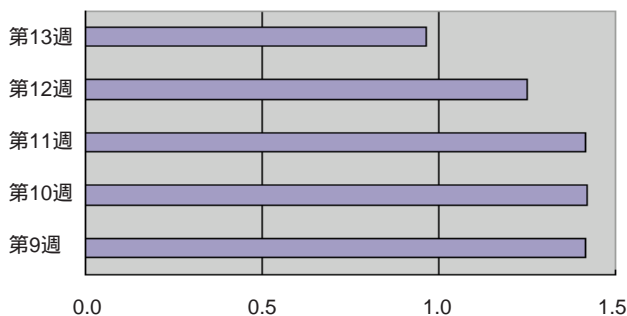
最近の注目疾患－5週間の動き

インフルエンザ、感染性胃腸炎は順調に定点当たり報告数が減少している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少している。水痘と流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より増加した。

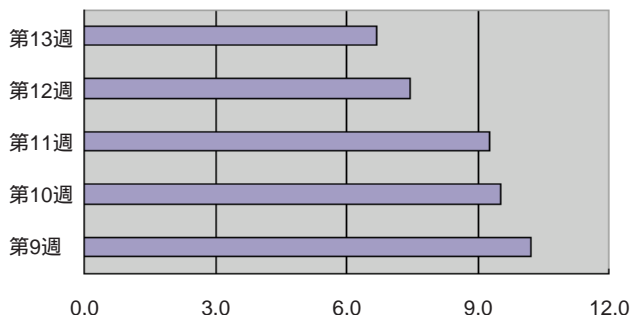
インフルエンザ



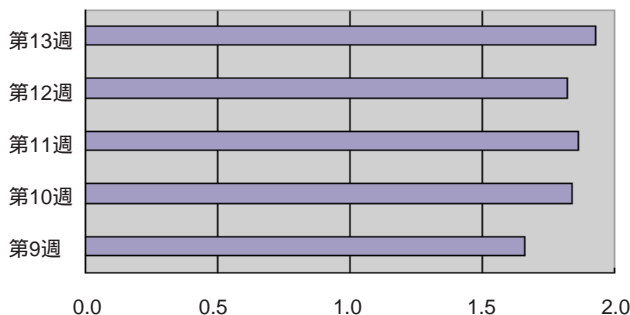
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



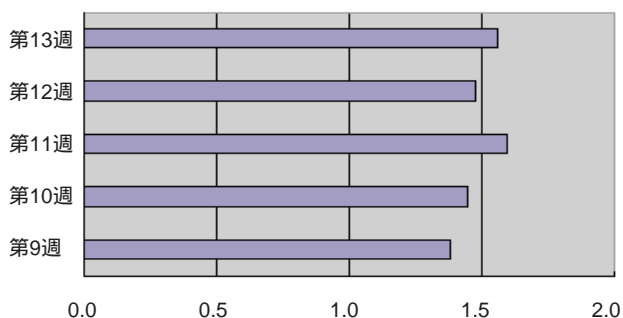
感染性胃腸炎



水痘



流行性耳下腺炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



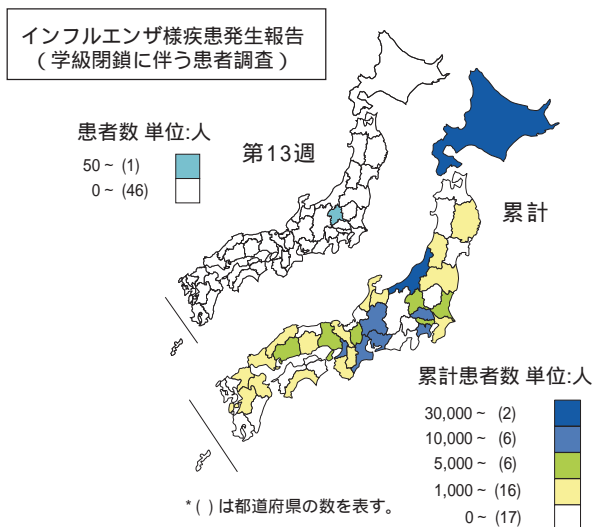
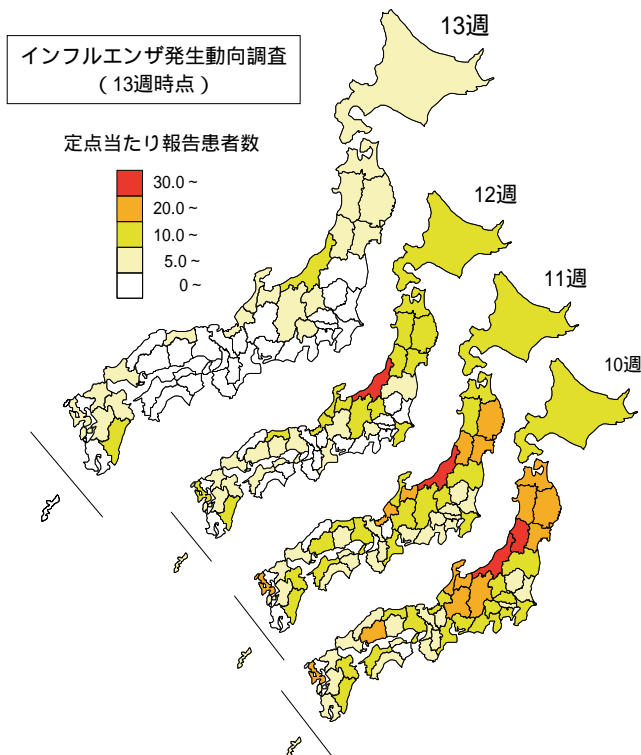
注目すべき感染症

インフルエンザ

2001/2002シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は、2002年第8週の定点当たり19.5をピークとして以降速やかに減少している。ピークの定点当たり報告数としては1993/1994シーズン、昨シーズンに続き過去10年間で3番目に小さい流行であった。2002年第13週の全国定点からのインフルエンザ報告総数は20,273で、定点当たり報告数は4.3であった。本年第1週からの累積患者報告数は62万5,279人である。今週、定点当たり報告数が多くなっているのは、新潟県(18.8)、宮崎県(10.1)、北海道(9.7)、福井県(9.7)、宮城県(9.2)などである。今週報告された患者を年齢階級別にみると、10歳未満の小児が全体の約6割、5歳以下の小児が全体の約36%、20歳以上の成人の報告は全体の16%を占めている。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによれば、警報も注意報も見られない都府県が23ある。大きな流行の存在を示唆する「警報」は、北海道内の9保健所、新潟県内の7保健所など計40保健所で発生しており、今後4週間以内に流行現象が生ずる可能性が高いか、あるいは流行が継続している(終息していない)可能性がある「注意報」は、北海道内の6保健所など全国計24保健所に発生している。全国的に警報、注意報ともに前週よりさらに少なくなっている(「インフルエンザ警報・注意報マップ」は感染症情報センターホームページ・トピックス「インフルエンザ」参照。インフルエンザウイルスの分離・検出については5ページ病原体検出情報参照)。

厚生労働省が都道府県の学校担当部局などの協力を得て行っている、学校における「インフルエンザ様疾患発生報告」によると、平成13年10月28日から平成14年3月30日までの累積欠席者数は163,820人(累積患者数は339,424)で、流行が小さかった昨年同期の約2.6倍となっている。





病原体情報

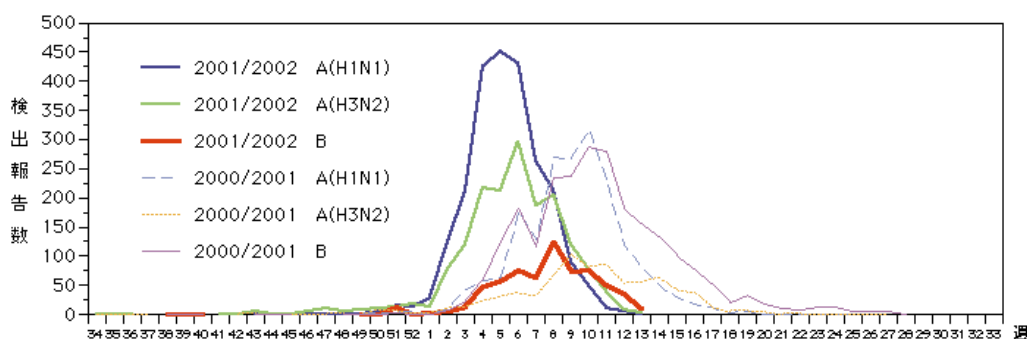
*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2002年4月5日現在報告分)

インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズンの分離・検出報告は、A/ソ連型(H1)が2,331件、A/香港型(H3)が1,634件、B型が647件である。昨シーズンと同様にA/ソ連、A/香港、B型の混合流行であるが、今シーズンはA/ソ連、A/香港型に関しては第2週から報告が増加し始め、第5～6週にピークを迎え、昨シーズンと比較して立ち上がり、ピークともに早くなっている。B型は第4週頃より報告が増加し始め、他の2つの型よりピークは遅れている。最近では、A/ソ連型が第12週に4(4県市)、第13週に1(札幌市)、A/香港型が第12週に8(6県市)、第13週に2(札幌市、名古屋市)、B型が第12週に35(9県市)、第13週に10(札幌市、福岡市)が報告されている。

週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報: 2002年4月5日現在報告数)



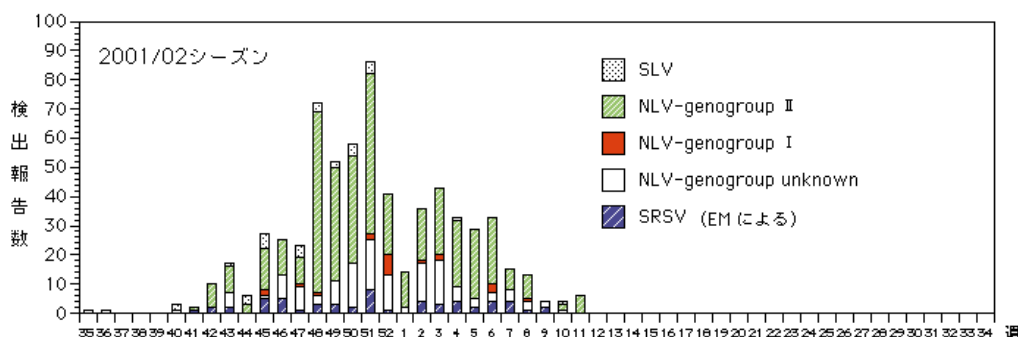
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSVの検出は、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup IIが416件(広島市63、滋賀県56、岩手県42、愛媛県37など)、NLV genogroup Iが20件(滋賀県8、石川県2、広島市2、長崎県2など)、NLV genogroup unknownが131件(新潟県42、山形県26、東京都15など)、サッポロ様ウイルス(SLV)が30件(愛媛県14、岩手県12、広島県4)で、その他に電顕による検出が57件(岡山県21、愛媛県12、北九州市8など)報告された。また、A群ロタウイルス165件(香川県43、奈良県30、新潟県22など)、群不明ロタウイルス18件(愛媛県14、北九州市3、熊本県1)の検出が報告されている。

検出されたSRSVの内訳、2001/02シーズン (病原微生物検出情報: 2002年4月5日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





市内一円で発生した *Salmonella* Enteritidis 食中毒の集団発生事例 - 豊橋市

2001年10月10日豊橋市内医療機関より、短期間にサルモネラ症と思われる患者を複数診察したとの連絡が同市保健所に入った。保健所の調査により10月12日現在、市内12の医療機関において、就学前児童と小学生を主とする66名の患者がサルモネラO9(後に *Salmonella* Enteritidis と判明)による下痢、発熱等の症状を呈していることが確認された。初期調査の結果、共通する飲食物、共通の食料品店や飲食店の利用、共通のイベント参加、共通施設の利用などがなく、感染源の特定が困難な状況であった。豊橋市保健所と国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース(FETP)が行った調査結果を要約する。

症例定義を「9月1日から調査当日まで、*Salmonella* Enteritidis(以下SE)が検便で検出されている豊橋市および周辺の者、またはSE陽性者の家族で下痢、腹痛、発熱のいずれかの症状を呈している者」と定め、豊橋市医師会などの協力により症例を継続して収集した。9月1日～10月31日までに発症したSE症例は計163人(年齢中央値8歳)、ファージ型(以下PT)別の内訳ではPT1が98例、PT47が34例、PT4が10例、PT1b、untypable 各1例、未検査19例であった。年齢群別では、就学前児童34例、小学生112例、中学生3例、高校生以上14例であった。患児が通っている小学校は市内52校のうち30校にのぼり、4つある給食センターすべての担当区域と、自校調理方式2校のうちの1校から症例が発生していた。9月上旬には豊橋市で症例定義に合致したSE感染症症例の発生は4例/2週間であったが、9月18日ころより豊橋市の全域でSE症例の増加がみられ、10月8日/9日にピークを形成した。判明した範囲で、12人(1～10歳、年齢中央値5歳)が入院治療を受けたが、いずれも重症者はいなかった。就学前児童は9月下旬～10月初めにかけての発症が多く(主にPT47)、10月上旬に発症した患者のほとんどは小学生(主にPT1)であった。

10月4～18日の間にPT1が検出されたのは、小中学生とその年少の家族のみからであった。これらの小学生の患者についての疫学調査の結果、学校に関連した曝露としては、学校給食のデザートとして10月1～2日に豊橋市においてのみ出された月見まんじゅう以外に、患者の発生時期、分布を矛盾なく説明できるものはなく、また、学校行事のため月見まんじゅうが供されなかった一部の学校からは症例の報告がなかった。月見まんじゅうが供された学校において、すべての児童、生徒が月見まんじゅうを喫食したと仮定したコホート研究において、月見まんじゅうの曝露と曝露後5日以内のSE症例の発症に関して統計学的な有意差(RR=11.4、95%信頼区間1.54～84.24)を認めた。

9月20日に月見まんじゅうを製造したA食品会社(菓子製造業者)は、その数日前からB鶏卵会社(液卵製造業者)の液卵、殻つき卵を用いてシュークリームの試作を行っており、加熱前のシュー皮(卵使用)と月見まんじゅう(卵未使用)とで包餡機を共用した可能性が示唆された。包餡機を通過した後の月見まんじゅうは本来、殺菌の目的で大型蒸器により加熱処理をすることになっていたが、蒸器が老朽化していて、気密性に問題があったにもかかわらず、製品の中心温度の測定等はなされていなかった。

学校給食の保存食検査と給食センター、学校給食用の主食工場、患者の出た小学校、A食品会社の環境ふきとり検査、食品関連の従業員の検便が行われた。当初の月見まんじゅう10検体の検査にてSEは検出されなかったが、12月に追加した3検体の検査にて1検体のみからSE-PT1が検出された。それ以外はすべて陰性であった。なお、月見まんじゅうから検出されたSE-PT1の

パルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)パターンは、小学生のPT1の症例と同一であり、これは比較的珍しい型であった。

市内の複数の液卵製造工場の環境ふきとり検査、液卵製品の細菌検査の結果、B鶏卵会社の液卵回収工程と殺菌未凍結液卵よりSE-PT47が検出された。また、9月に収去が行われていたB鶏卵会社の殺菌凍結液卵よりSE-PT1が検出されており、これは今回の小学生などの症例から検出されたものとPFGEパターンが一致した。なお、今回の事例発生以後B鶏卵会社は、液卵の製造から全面撤退することとなった。

月見まんじゅうの曝露に関して、潜伏期は3 ~ 16日(中央値8日)となり、極めて長いものであった。人 - 人感染、環境からの汚染などは考えにくい状況であったため、SEの汚染が極めて低濃度でしかもむらがあったことにより、通常より潜伏期が長く、患者発生曲線の幅も広がったのではないかと考えた。また、報告された症例のみで発生率を計算すると、小学生は0.5%、中学生は0.06%となり、低濃度でむらのある汚染であった可能性を示唆する知見と考えた。実際、検査の月見まんじゅうの検査からは13個中1個のみからSEが検出され、また同検体の菌量定量検査は測定限界以下であった。このような汚染状況においては、解析疫学を用いた調査がきわめて有用であることが今回の調査において裏付けられた。

PT1以外のファージ型によるSE症例については、今回の調査からはその原因を明らかにすることができなかったが、散发例の集積である可能性もあると考えた。なお、SE感染症は卵関連であることが多く、その加工形態、加工場所、喫食場所が様々であるため、広域に発生した場合調査が極めて複雑になることが多い。しかし、今回の広域で起こったSE集団発生の事例調査において、ファージ型検査による症例の分類を行うことにより、系統的な調査が可能となったのは特筆すべきことであった。

今回の調査の結果、学校給食センターの品質管理に比し、主食である米飯・パン工場において衛生管理が充分でないことが明らかになった。また、外部業者から納入された月見まんじゅうの品質管理が充分でなかったことは、こうした外部委託業者の指導の在り方に問題を残すこととなった。給食に供される各食品はすべて等しい品質管理を満たす必要があるというのは、子供の安全を守る上で大前提となる重要な要件である。

今回の事例の経過中、豊橋市内の小中学校において学校給食は継続して供給された。小学生における患者発生曲線が10月の3連休の最終日にピークを形成していたことから、潜伏期が通常1 ~ 2日程度であるとされるSE感染症の原因として学校給食は考えにくかったこと、給食センターと主食工場の供給状況と患者発生の分布に相関がなかったことなどから学校給食は継続され、学校側の準備が整うのを待って10月25日に給食センターと学校内の一斉消毒が行われた。

集団発生の終息については、豊橋市において11月には2例のSE症例が報告されたのみであり、平素のSE患者発生レベル以下になったことが確認された。

なお、本件に関連して豊橋市保健所は、A食品会社とB鶏卵会社に対して次の措置をとった。

1. A食品会社(菓子製造業者)

食品衛生法第4条第3号違反として同法第23条に基づき営業禁止処分するとともに、施設に対し以下の改善指導を行った。

- ・施設内の洗浄・消毒の徹底
- ・製品の加熱工程における温度管理と当該記録の徹底

- ・今回二次汚染の原因となった蒸器等の老朽化した設備の取り替え、または補修
- ・液卵を原料として取り扱うに当たってのサルモネラ対策の徹底
- ・従業員に対する衛生教育の実施

2. B鶏卵会社(液卵製造業者)

2001(平成13)年9月17日の行政検査の結果SEが検出された殺菌凍結液卵について、食品衛生法第4条第3号および第7条違反として、同法第22条に基づき廃棄命令処分を行うとともに、同施設に対するその後の調査結果から以下の指導を行った。

- ・製造記録から判断して、製造基準に合わない方法により製造されたと考えられる殺菌凍結液卵の存在が幾つか判明したため、賞味期限(1年半)内にある当該製品すべてを自主的に回収するとともに、回収製品の処分状況を示すマニフェスト(産業廃棄物管理表)を提出するよう指示した。
- ・製造基準に従って殺菌液卵を製造できることが確認されるまでの間、営業の自粛を指示した(結果として、液卵製造から撤退することとなった)。
- ・施設内の洗浄・消毒の徹底
- ・従業員に対する衛生教育の実施

豊橋市保健所

柴田和顯 木島秀雄 森川保二 近田泰一

豊橋市教育委員会 沓名昂一

愛知県衛生研究所 栄 賢司 高橋正夫

豊橋市医師会 岡田和嘉

国立感染症研究所実地疫学専門家養成コース 松井珠乃 鈴木里和

国立感染症研究所・細菌部 泉谷秀昌 渡辺治雄

国立感染症研究所・食品衛生微生物部 工藤由起子 春日文字

国立感染症研究所・感染症情報センター 高橋 央 大山卓昭 岡部信彦

(IASR2002年4月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

英国の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病

Eurosurveillance weekly 2002年4月4日

英国保健省は、牛海綿状脳症に関連した病型の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)を含むクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の最新の患者数を公表した。2002年3月28日までに英国でvCJD(確定診断例、およびほぼ確実例)により110名が死亡した。現在、7名のvCJD(確定診断例、およびほぼ確実例)が生存している。2002年1月1日から3月28日までに、エジンバラのCJDサーベイランス部に40件の問い合わせがあり、6名のvCJDを含む12名がCJDと確定診断された。

vCJDは、2001年に20名、2000年に28名、1999年に15名、1998年に18名、1997年に10名が報告された。

ブルキナファソの髄膜炎菌感染症 - 更新

WHO/CSR 2002年4月4日

4月3日現在ブルキナファソ保健省は、2002年1月1日以来国内で813名の死亡(致死率13%)を含む6,145名の髄膜炎患者を報告した。流行はPama地区で始まり、26地区に拡大し、およそ600万人に感染の危険性がある。

国立公衆衛生研究所のネットワークで複数の患者からW135群髄膜炎菌が確認され、ノルウェー、オスロのWHO協力機関である髄膜炎菌に関するリファレンスセンターで、その株の特徴が詳しく分析された。

疫学サーベイランス、検査による患者の確定診断、住民教育、人および物資の援助などの対策が行われている。罹患の危険がある人に対する4価髄膜炎菌ワクチンが不足しているので、対策としては、患者治療を効果的に行うこと、サーベイランスを改善することなどに重点をおいている。

保健省は、国際社会に対して支援や薬剤およびワクチンを要請した。WHOは、ICG(International Coordinating Group of Vaccine Provision for Epidemic Meningitis Control)を通じて47,000回投与分のクロラムフェニコールを供給し、流行を征圧するために必要な追加物資の確認作業を行っている。

ブラジルのデング熱/デング出血熱 - 更新

WHO/CSR 2002年4月3日

4月2日現在リオ・デ・ジャネイロ市保健局は、29名の死亡を含むデング出血熱患者460名、およびデング熱患者67,867名を報告した。



感染症の話

ツツガムシ病

ツツガムシ病は *Orientia tsutsugamushi* を起病因菌とするリケッチア症であり、ダニの一種ツツガムシによって媒介される。患者は、汚染地域の草むらなどで、有毒ダニの幼虫に吸着され感染する。発生はダニの幼虫の活動時期と密接に関係するため、季節により消長がみられる。また、かつては山形県、秋田県、新潟県などで夏季に河川敷で感染する風土病であったが(古典型)、戦後新型ツツガムシの出現により北海道、沖縄など一部の地域を除いて全国で発生がみられるようになった。

疫学

ツツガムシは一世代に一度だけ、卵から孵化した後の幼虫期に哺乳動物に吸着し、組織液を吸う(図1)。その後は土壌中で昆虫の卵などを摂食して生活する。わが国でリケッチア(以下、菌)を媒介するのは、アカツツガムシ (*Leptotrombidium akamushi*)、タテツツガムシ (*L. scutellare*)、およびフトゲツツガムシ (*L. pallidum*) の3種であり、それぞれのダニの0.1～3%が菌をもつ有毒ダニである。ヒトはこの有毒ダニに吸着されると感染する。吸着時間は1～2日で、ダニから動物への菌の移行にはおよそ6時間以上が必要である。菌はダニからダニへ経卵感染により受け継がれ、菌をもたないダニ(無毒ダニ)が感染動物に吸着しても菌を獲得できず、有毒ダニにならない。したがって、自然界でげっ歯類などの動物はヒトへの感染増幅動物とはならず、ダニのライフサイクルを完結させるために重要となる。

新型ツツガムシ病を媒介するタテツツガムシ、およびフトゲツツガムシは秋～初冬に孵化するので、この時期に関東～九州地方を中心に多くの発生がみられる(図2)。また、フトゲツツガムシは寒冷な気候に抵抗性であるので、その一部が

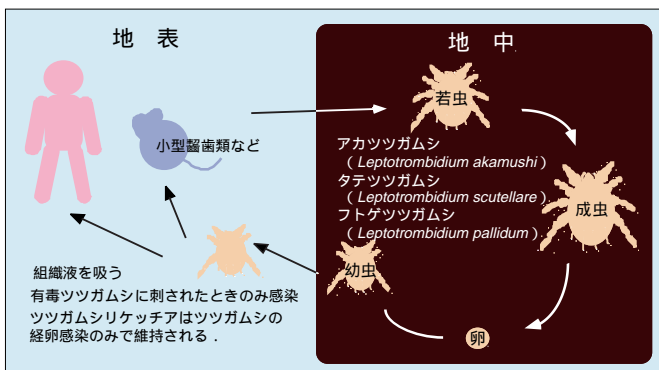


図1. ツツガムシの生活環

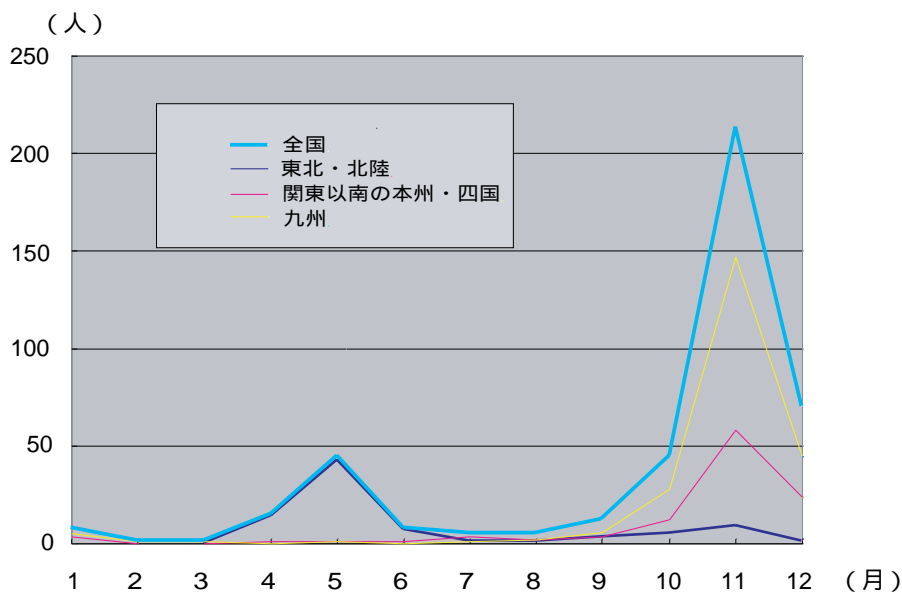


図2. ツツガムシ病の月別地方別の患者発生数(1998年)

越冬し、融雪とともに活動を再開するため、東北・北陸地方では春～初夏にも発生がみられ、そこではこの時期の方が秋～初冬より患者が多い。したがって全国でみると、年間に春～初夏、および秋～初冬の2つの発生ピークがみられる。また、古典型ツツガムシ病の原因となったアカツツガムシは現在消滅したと考えられ、夏期に発生ピークはみられない。

我が国では1950年に伝染病予防法によるツツガムシ病の届け出が始まり、1999年4月からは感染症法により4類感染症全数把握疾患として届け出が継続されている(図3)。感染症法施行後の患者数をみると、1999年(4～12月)には588人、2000年(1～12月)には急増して754人が報告された。2001年には460人に減少したが、今後の動向が注目される。また、毎年数人の死亡例も報告され、依然として命を脅かす疾病であることがうかがえる。また、ツツガムシ病は広くアジア、東南アジアにも存在しており、輸入感染症としても重要である。

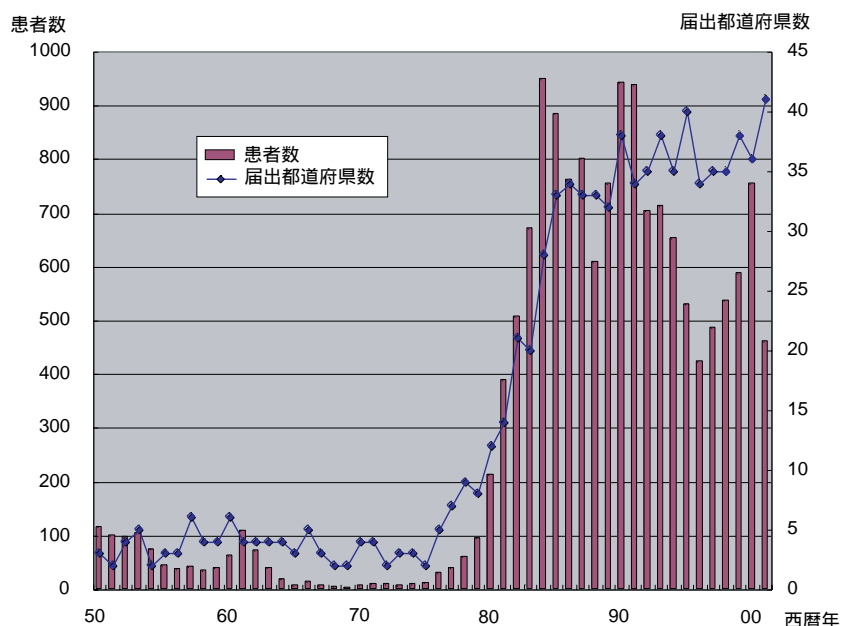


図3. ツツガムシ病の患者数および届出都道府県数の推移 (1950～2001年)

病原体

ツツガムシ病の起原菌はオリエンティア・ツツガムシ (*Orientia tsutsugamushi*) であり、大きさはおよそ $0.5 \times 2.5 \mu\text{m}$ である(写真1)。他のリケッチアと同様に、細胞外では増殖できない偏性細胞内寄生細菌である。本菌には血清型が存在し、Kato、Karp、およびGilliamの3種類は標準型とよばれ、その他にも、Kuroki、およびKawasakiなど新しい型も報告されている。



写真1. *Orientia tsutsugamushi* の電子顕微鏡写真 (新潟薬科大学微生物学教室 浦上弘先生提供)

臨床症状

潜伏期は5～14日で、典型的な症例では39以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口(写真2)がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹(写真3)がみられるようになる。発熱、刺し口、発疹は主要3徴候とよばれ、およそ90%以上の患者にみられる。また、患者の多くは倦怠感、頭痛を訴え、患者の半数には刺し口近傍の所属リンパ節、あるいは全身のリンパ節の腫脹がみられる。臨床検査ではCRP強陽性、ASTおよびASLなどの肝酵素の上昇がおよそ90%の患者にみられる。また、治療が遅れると播種性血管内凝固をおこすことがあり、致死率が高い。



写真2. ダニの刺し口
(須藤恒久著 「新ツツガムシ病物語」より)

発生時期がその年の気候により影響を受けること、わが国には夏～秋に発生が多い日本紅斑熱が存在することなどから、年間を通して、本症を含むダニ媒介性リケッチア症を常に疑うことが重要である。また、ヒトの移動に伴い、汚染地域に出かけて感染し、帰宅後発症する例もあるので、汚染地域だけでなく広く全国の医療機関で注意が必要である。



写真3. 発疹
(須藤恒久著 「新ツツガムシ病物語」より)

病原診断

確定診断は主に間接蛍光抗体法、および免疫ペルオキシダーゼ法による血清診断で行われている。診断用抗原にはKato、Karp、およびGilliamの標準型に加

えて、Kuroki、およびKawasaki型を用いることが推奨されている。ある特定の血清型だけに抗体が上昇する場合があります(つまり、血清学的な交差反応が株間でみられない場合がある)流行に合わせて新しい血清型も使用しないと、診断できないことがあるためである。判定は、急性期血清でIgM抗体が有意に上昇している時、あるいは、ペア血清で抗体価が4倍以上上昇した時を陽性とする。また、ワイル・フェリックス反応ではOXK陽性となるが、陰性のこともあるので注意が必要である。

病原体診断には、末梢血中からの菌のDNA検出が用いられている。EDTA加全血からパフィーコート分画を分離し、DNAを抽出後、nested PCR法による検出がなされる。また、この方法で菌の血清型別も可能である。菌分離はマウスや培養細胞を用いて行われるが、P3実験施設が必要であり、時間もかかるので診断には実用的でない。

治療・予防

ダニ媒介性リケッチア症の一般的な治療法、および予防法に準じて行う。治療には、早期に本症を疑い、適切な抗菌薬を投与することが極めて重要である。第一選択薬はテトラサイクリン系の抗菌薬であり、使用できない場合はクロラムフェニコールを用いる。ラクタム系抗菌薬は無効である。

本症の予防に利用可能なワクチンはなく、ダニの吸着を防ぐことが最も重要である。具体的には、発生時期を知り汚染地域に立ち入らないこと、立ち入る際にはダニの吸着を防ぐような服装をすること、作業後には入浴し吸着したダニを洗い流すこと、などである。

感染症法における取り扱い

ツツガムシ病は4類感染症全数把握疾患であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

- ・病原体の検出
例、血液からの病原体の分離など
- ・病原体の遺伝子の検出
例、PCR法など
- ・病原体に対する抗体の検出
例、血液からの間接蛍光抗体法あるいは間接免疫ペルオキシダーゼ法で抗体価の4倍以上の上昇か、IgM抗体上昇など

(国立感染症研究所ウイルス第一部 小川基彦)



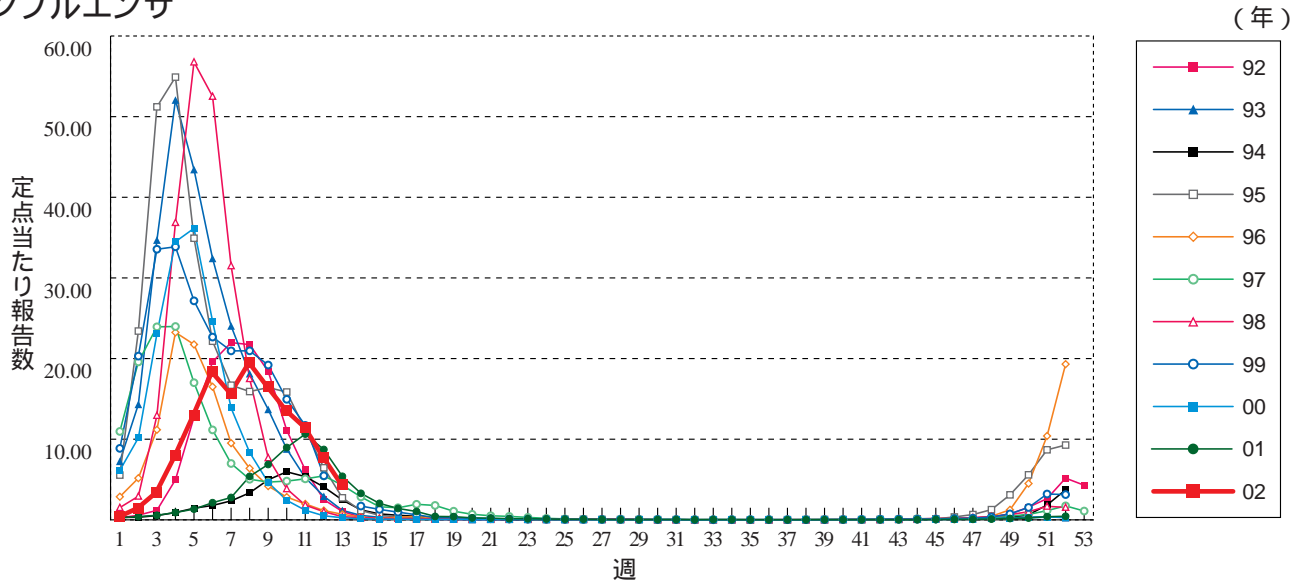
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

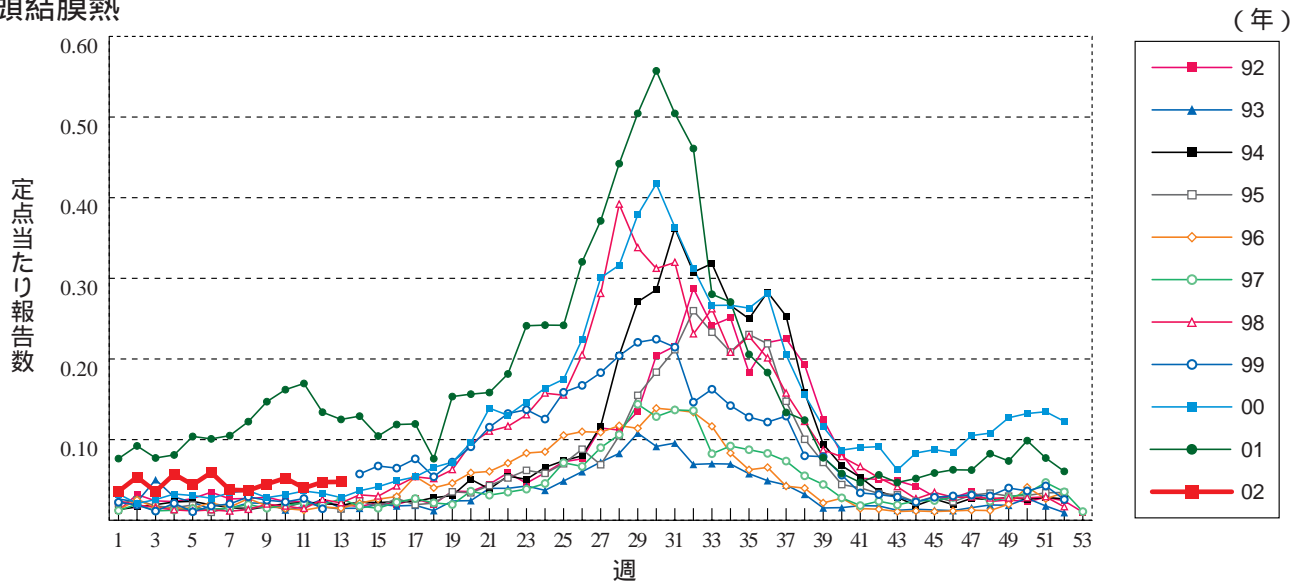
idsq-query@nih.go.jp

グラフ総覧(13週)

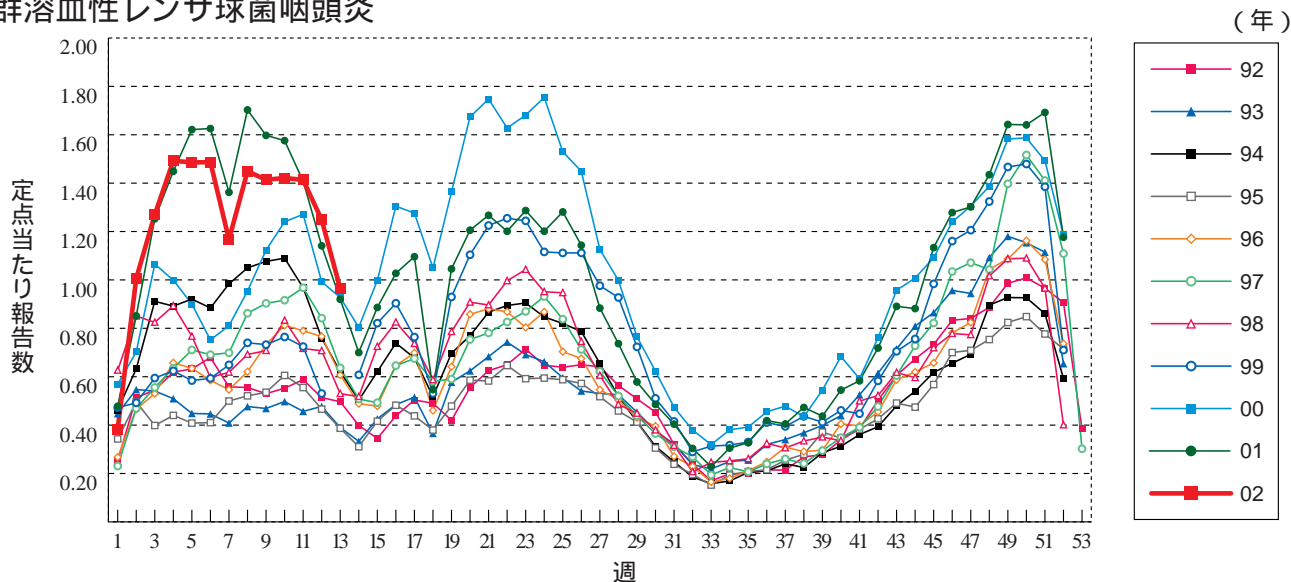
インフルエンザ



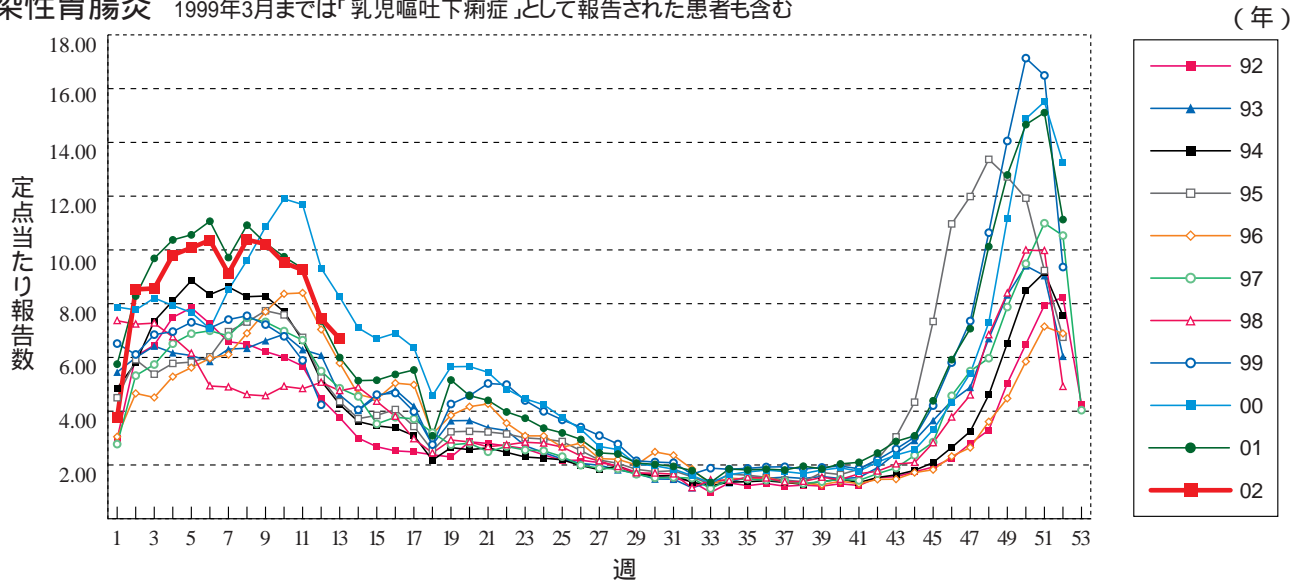
咽頭結膜熱



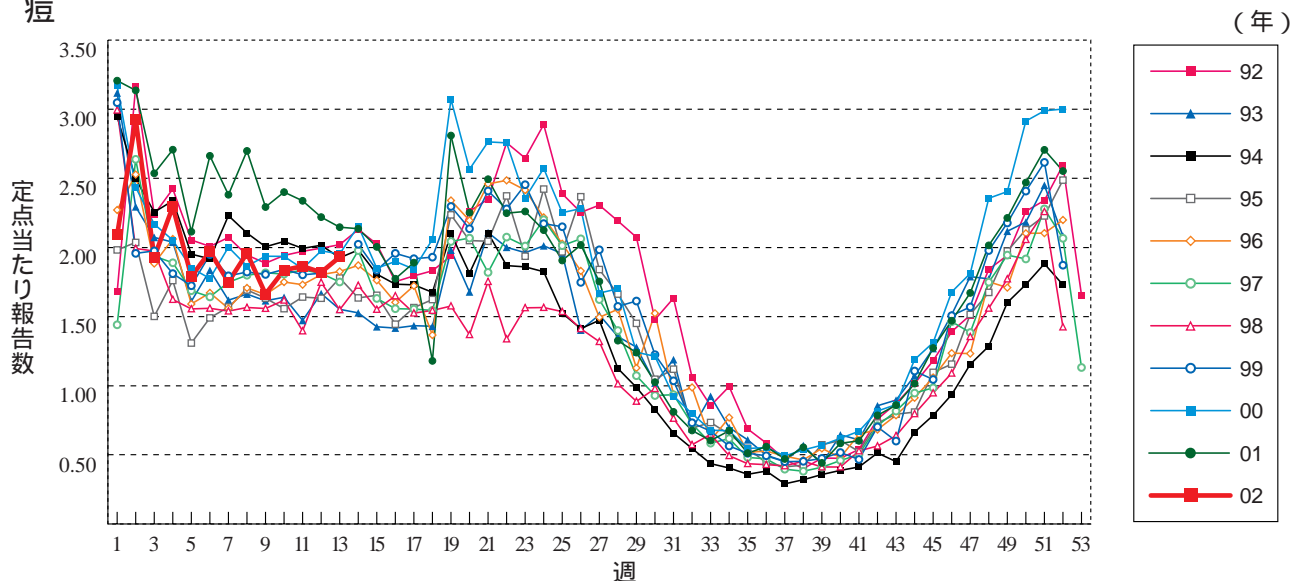
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



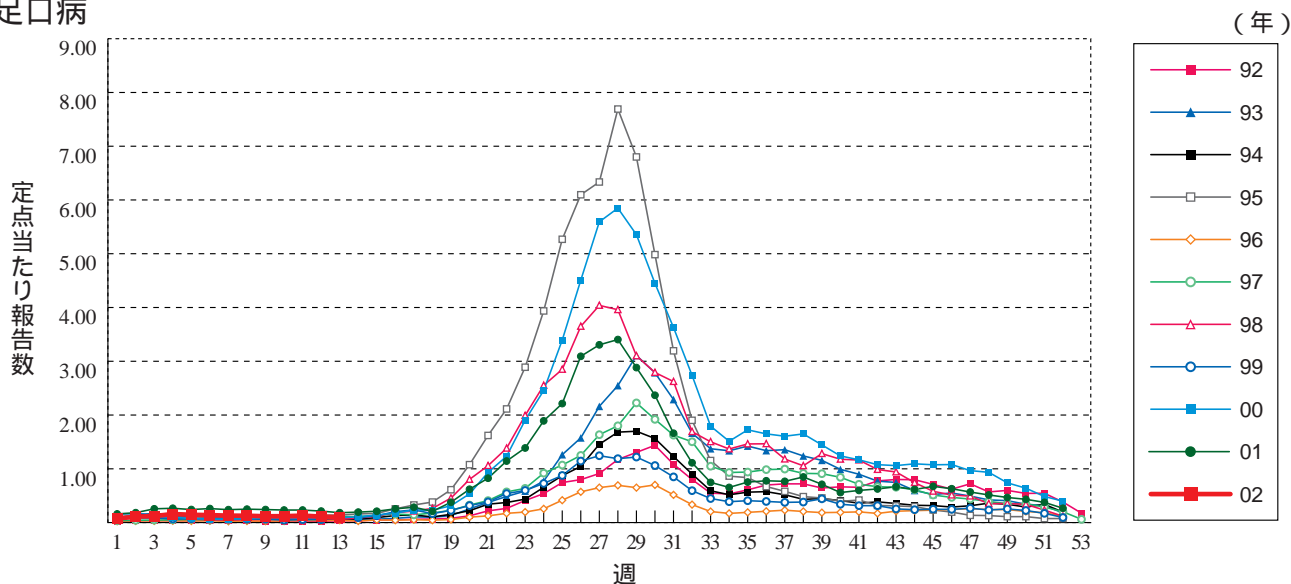
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



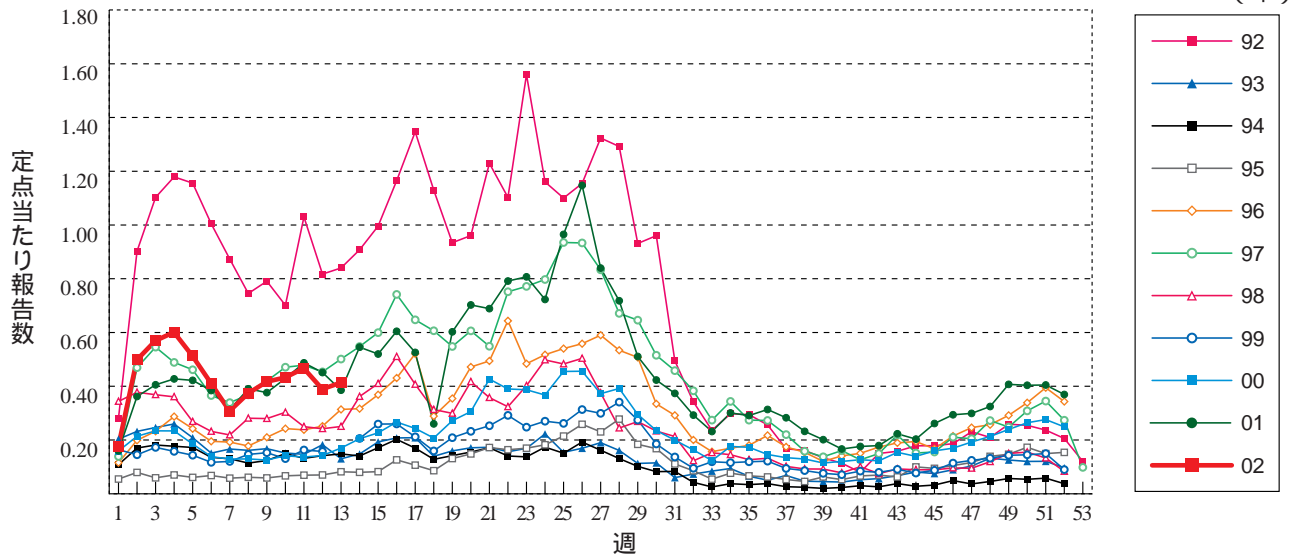
水痘



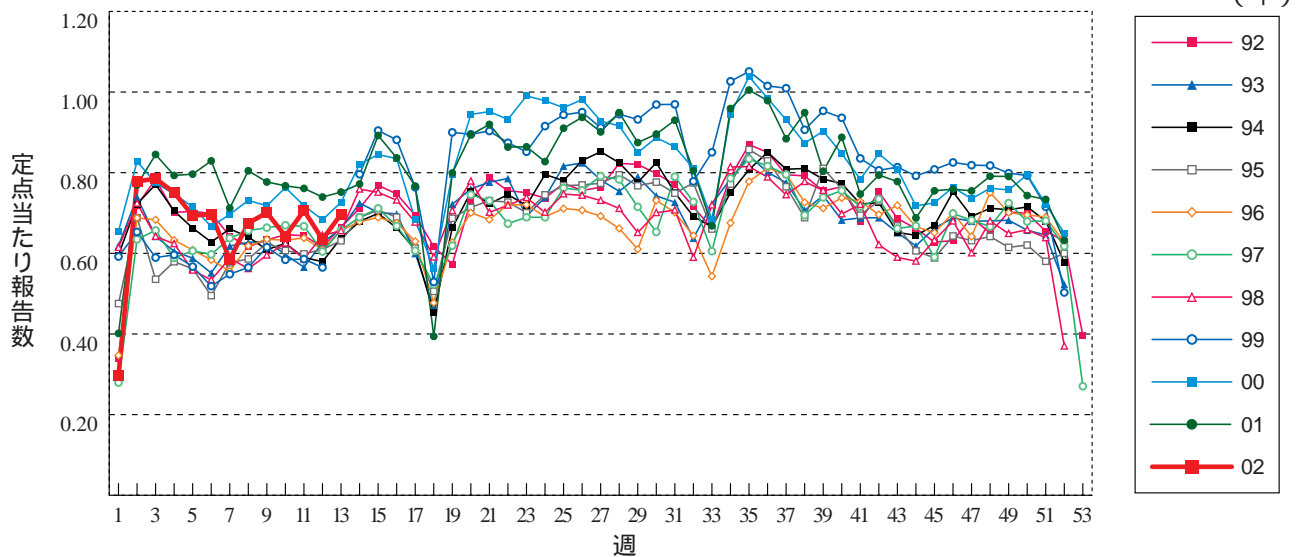
手足口病



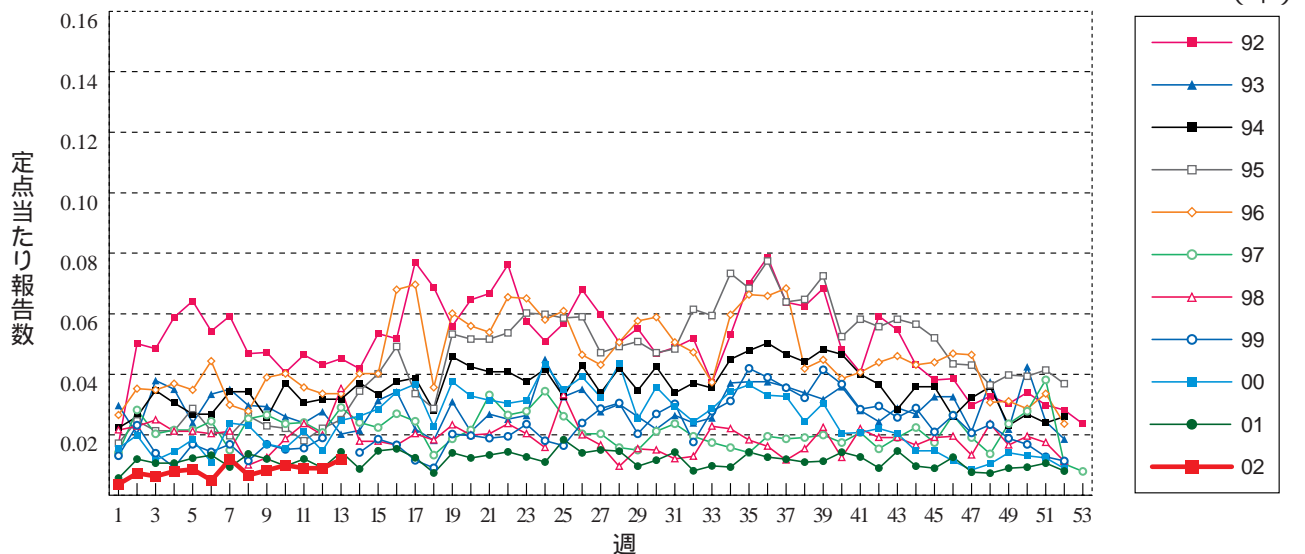
伝染性紅斑



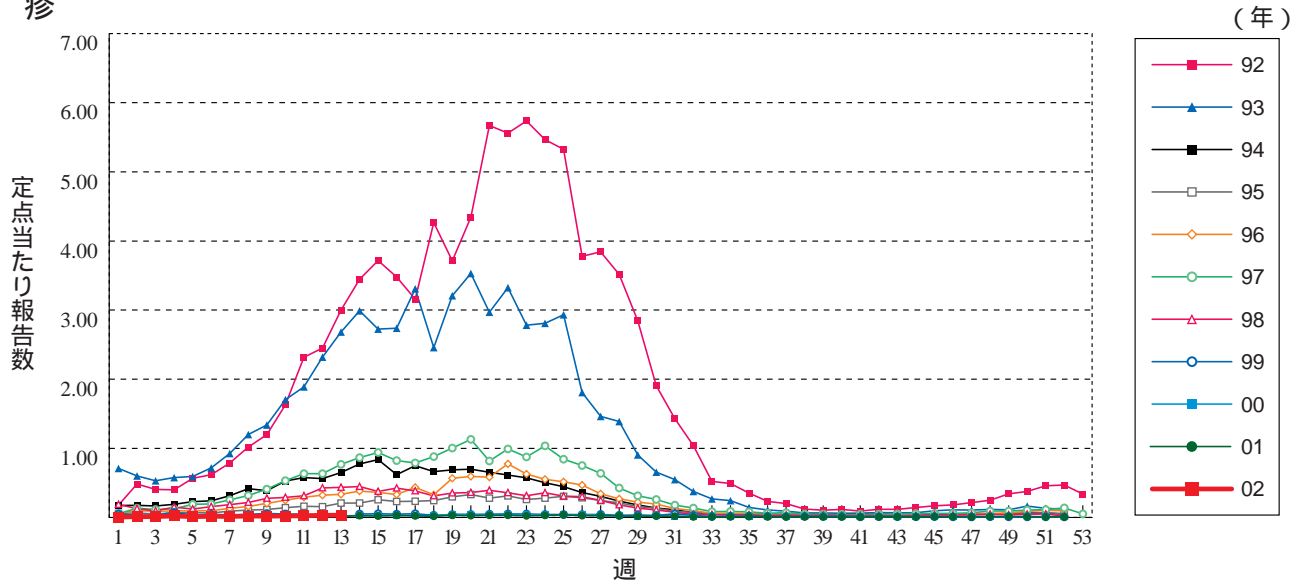
突発性発疹



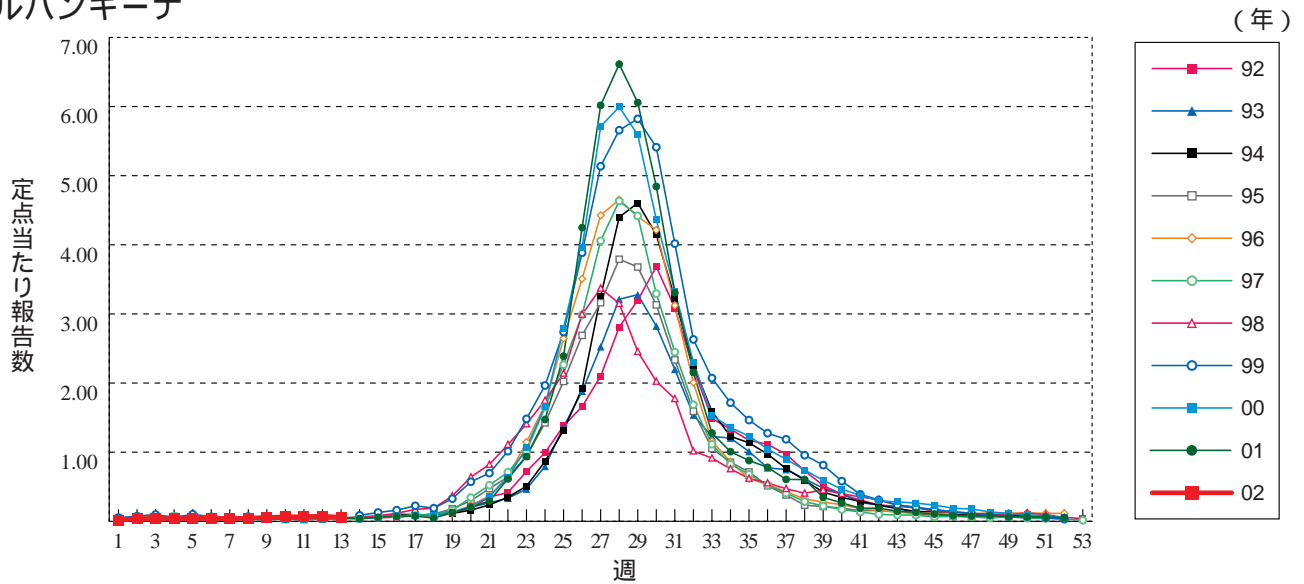
百日咳



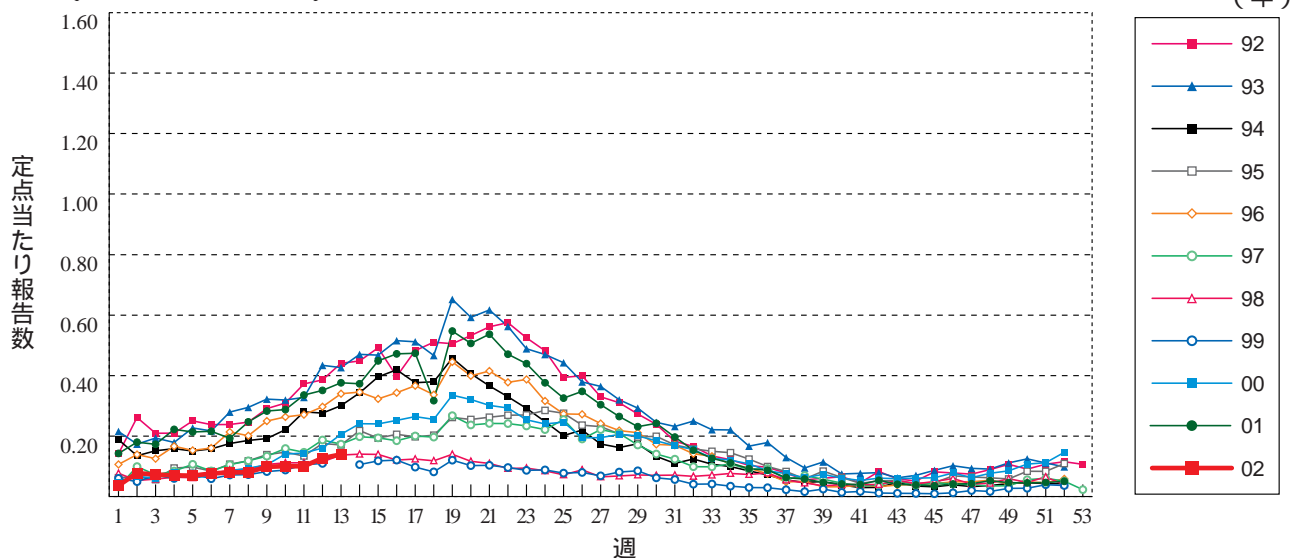
風 疹



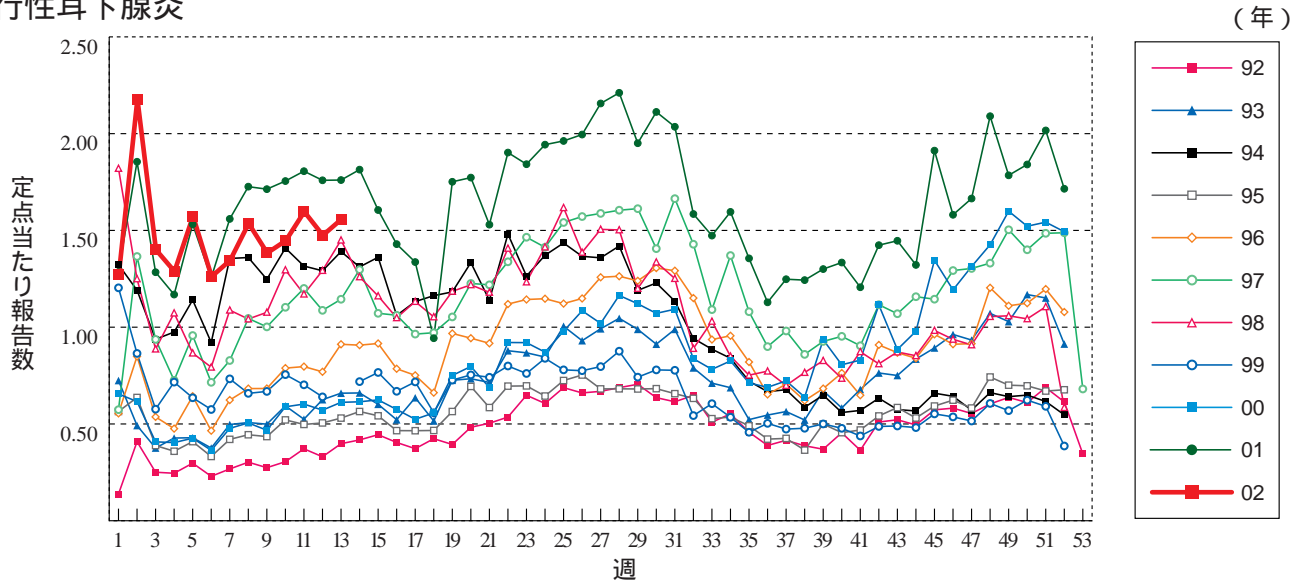
ヘルパンギーナ



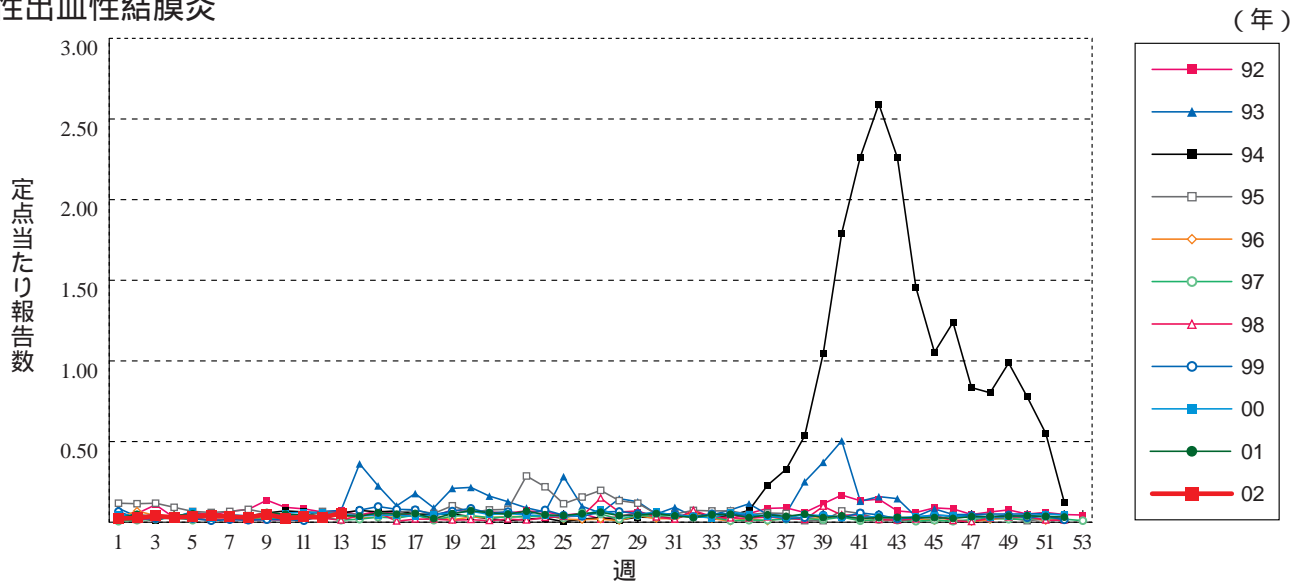
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



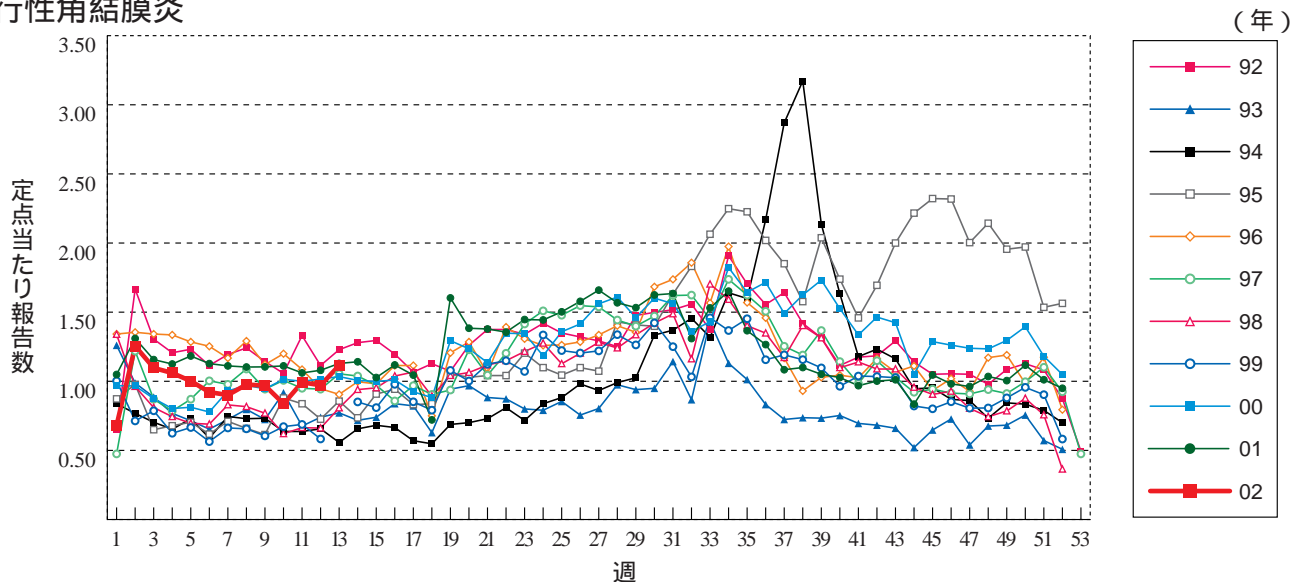
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

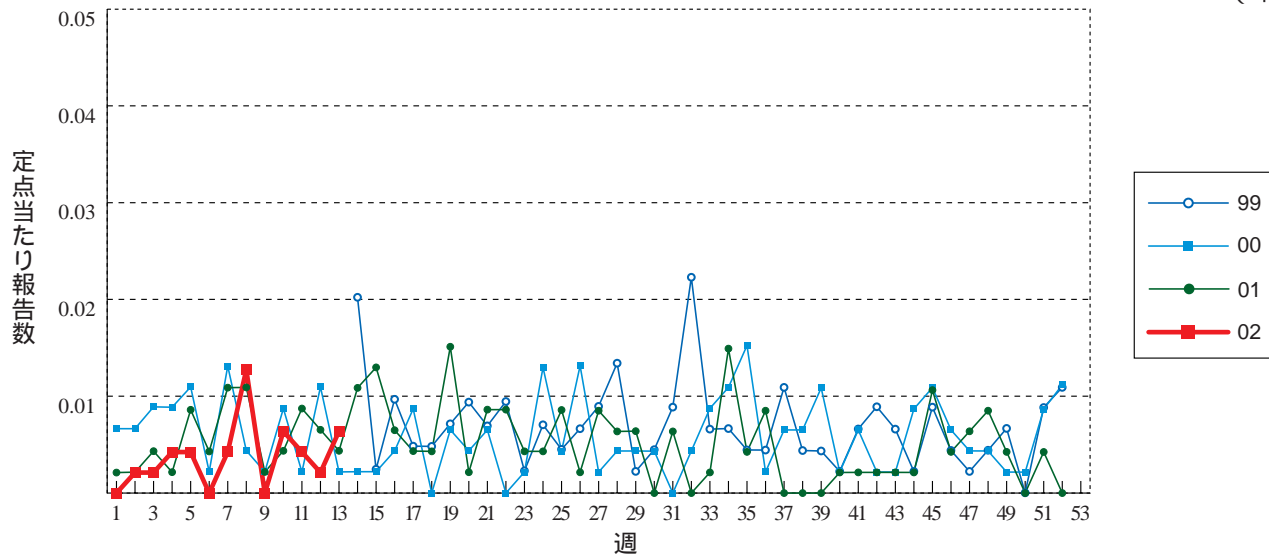


流行性角結膜炎



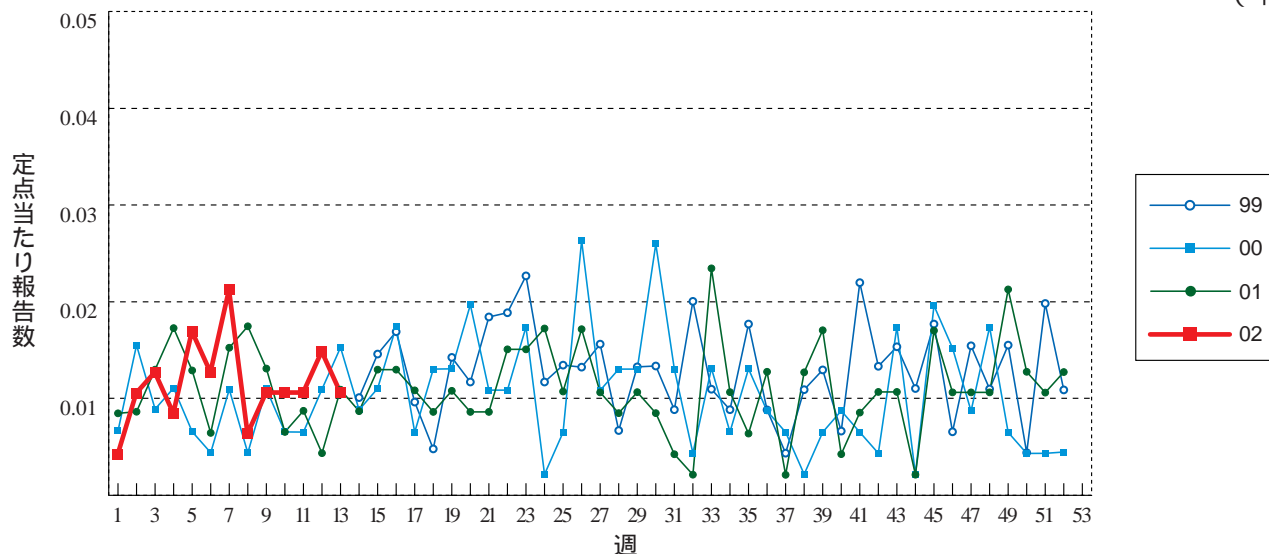
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



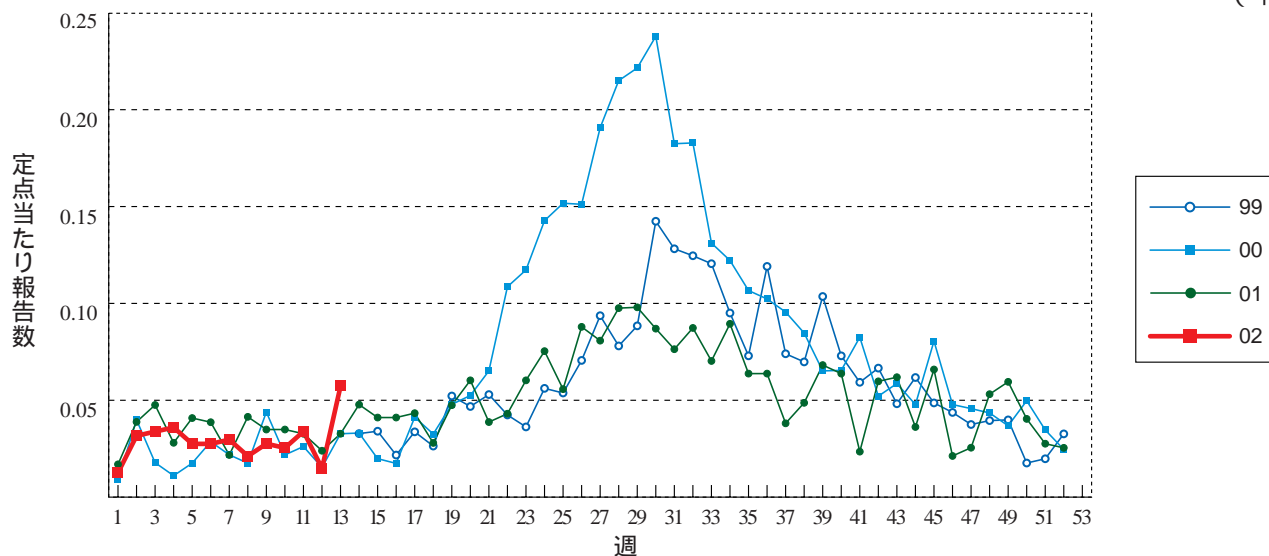
細菌性髄膜炎

(年)



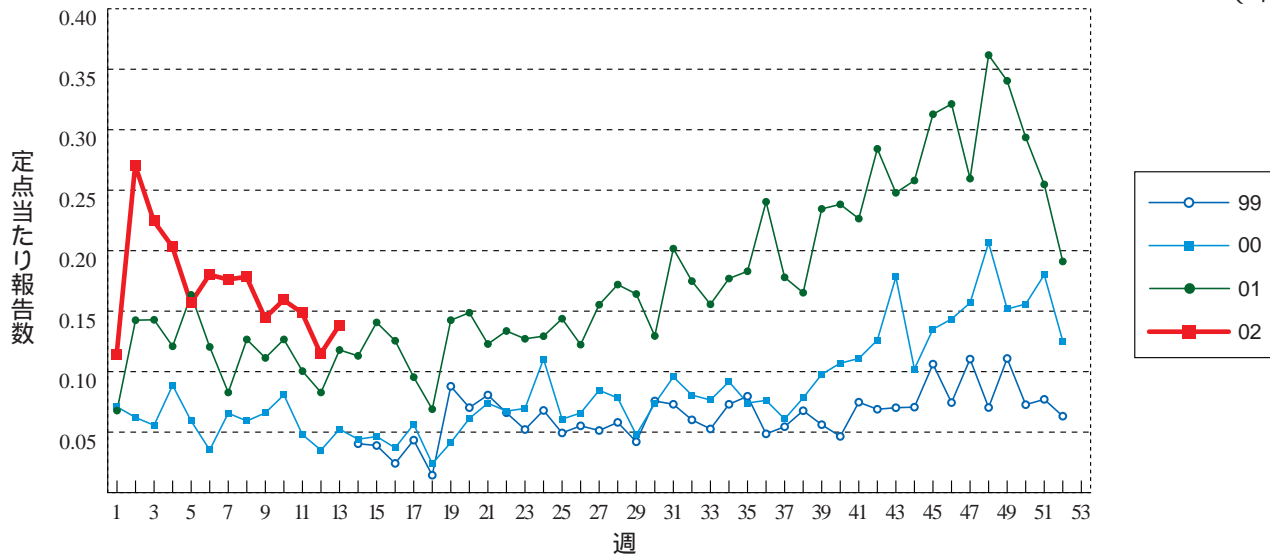
無菌性髄膜炎

(年)



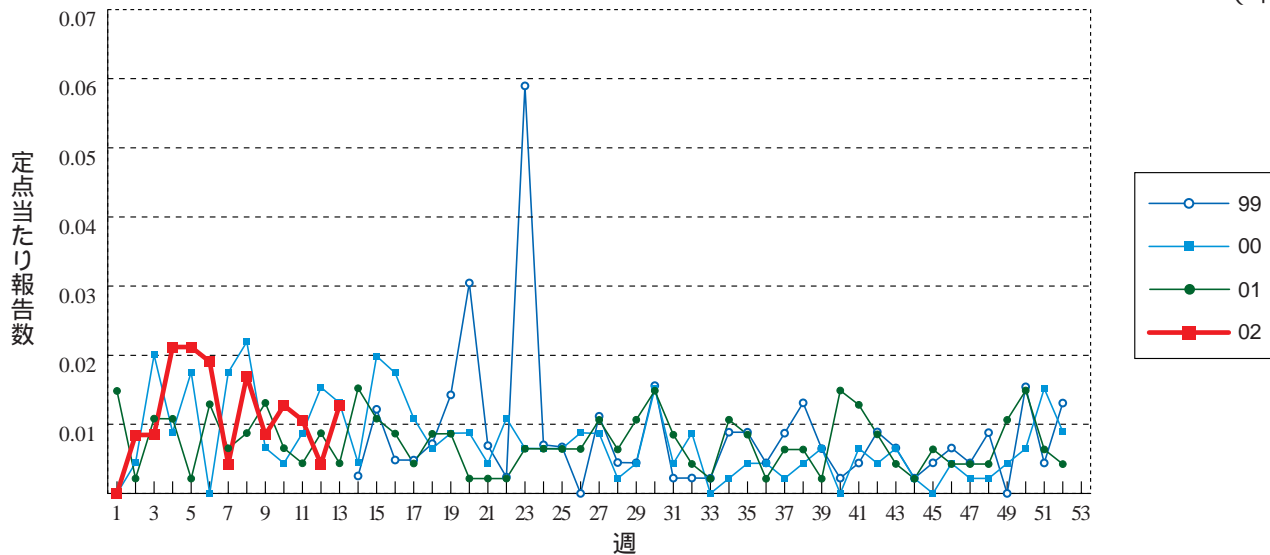
マイコプラズマ肺炎

(年)



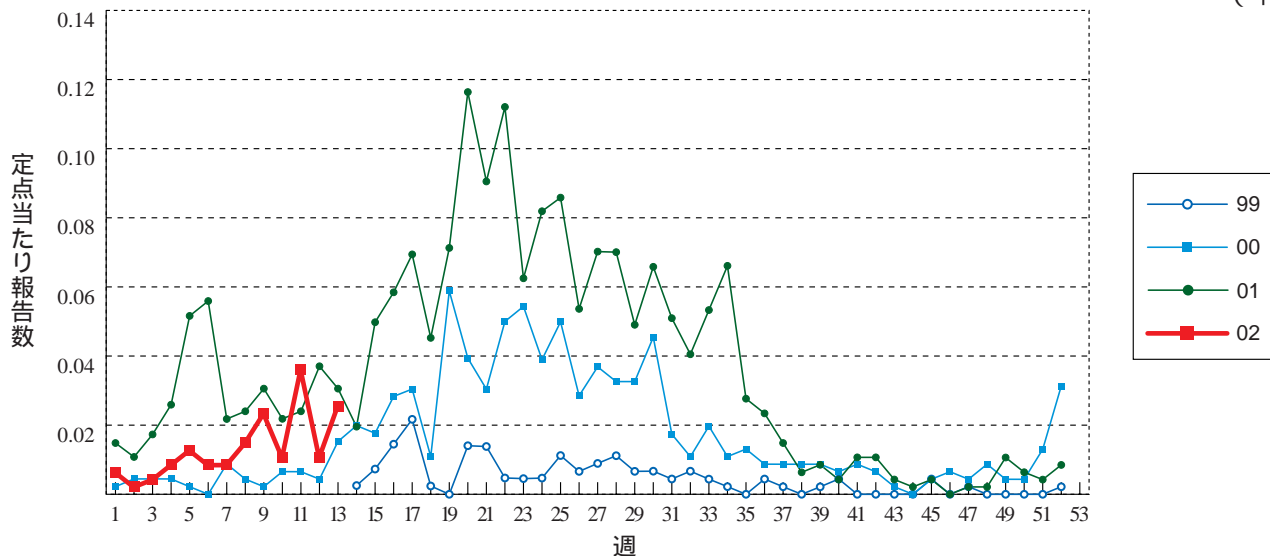
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





13週のデータ

注)表中の報告数は4月5日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年13週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	19	266	-	12	1	7
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	25	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	63	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	20	-	6	-	2
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	29	-	-	1	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	5	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	2	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年13週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	9	111	1	90	-	2	-	-	1	25	-	-	12	232
北海道	-	-	-	-	-	3	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	5	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10
秋田県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
東京都	-	-	-	-	-	4	-	19	-	-	-	-	1	1	-	-	2	37
神奈川県	-	-	-	-	1	8	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	3	-	-	-	9
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
愛知県	-	-	-	-	1	7	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
三重県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	6	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6
大阪府	-	-	-	-	-	8	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-	-	9
兵庫県	-	-	-	-	-	19	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
広島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	8
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
徳島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	-	1	7	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	11
佐賀県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鹿児島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	1	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年13週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	2	-	-	1	63	-	35	1	27	9	171	-	1	3	19	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	11	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	1	2	-	2	-	2	5	79	-	-	2	8	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	9	-	-	1	2	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	5	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	3	-	11	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	61	-	1	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年13週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	38	1	11	-	-	-	-	-	-	5	123	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
福島県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
東京都	-	-	-	-	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	15	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	5	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
広島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年13週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	10	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	20	-	-	1	28
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	6
神奈川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
兵庫県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年13週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	20273	4.33	144	0.05	2917	0.96	20263	6.70	5842	1.93	304	0.10	1251	0.41	2109	0.70	36	0.01
北海道	2235	9.72	3	0.02	305	2.10	377	2.60	209	1.44	6	0.04	43	0.30	79	0.54	1	0.01
青森県	434	8.04	-	-	30	0.73	130	3.17	41	1.00	1	0.02	51	1.24	10	0.24	-	-
岩手県	308	5.05	-	-	19	0.51	170	4.59	72	1.95	5	0.14	7	0.19	19	0.51	-	-
宮城県	892	9.20	1	0.02	86	1.46	531	9.00	86	1.46	8	0.14	35	0.59	46	0.78	-	-
秋田県	385	7.00	-	-	30	0.86	170	4.86	41	1.17	-	-	57	1.63	14	0.40	1	0.03
山形県	414	8.63	1	0.03	69	2.30	166	5.53	66	2.20	5	0.17	25	0.83	26	0.87	-	-
福島県	286	3.58	-	-	31	0.67	351	7.63	120	2.61	13	0.28	35	0.76	43	0.93	1	0.02
茨城県	362	3.07	-	-	52	0.70	333	4.50	93	1.26	1	0.01	25	0.34	38	0.51	-	-
栃木県	118	1.69	1	0.02	30	0.65	277	6.02	46	1.00	1	0.02	35	0.76	36	0.78	-	-
群馬県	757	7.57	1	0.02	84	1.35	323	5.21	100	1.61	1	0.02	27	0.44	34	0.55	-	-
埼玉県	652	2.55	10	0.06	173	1.09	1173	7.38	315	1.98	12	0.08	47	0.30	126	0.79	2	0.01
千葉県	868	4.23	4	0.03	144	1.11	880	6.77	328	2.52	3	0.02	22	0.17	93	0.72	-	-
東京都	196	1.10	2	0.01	50	0.35	621	4.37	149	1.05	4	0.03	18	0.13	59	0.42	3	0.02
神奈川県	599	1.83	25	0.12	151	0.73	1195	5.80	292	1.42	11	0.05	61	0.30	182	0.88	-	-
新潟県	1557	18.76	14	0.28	86	1.72	291	5.82	124	2.48	18	0.36	54	1.08	44	0.88	-	-
富山県	398	8.29	4	0.14	51	1.76	118	4.07	63	2.17	7	0.24	43	1.48	21	0.72	2	0.07
石川県	315	6.56	-	-	27	0.93	263	9.07	79	2.72	16	0.55	38	1.31	29	1.00	-	-
福井県	307	9.30	1	0.05	44	2.00	305	13.86	51	2.32	1	0.05	14	0.64	15	0.68	-	-
山梨県	234	5.71	1	0.04	34	1.36	97	3.88	32	1.28	-	-	6	0.24	10	0.40	-	-
長野県	496	5.77	-	-	63	1.17	417	7.72	97	1.80	2	0.04	31	0.57	44	0.81	-	-
岐阜県	255	3.64	-	-	27	0.57	206	4.38	72	1.53	4	0.09	12	0.26	22	0.47	-	-
静岡県	319	2.33	3	0.03	69	0.80	574	6.67	206	2.40	10	0.12	41	0.48	60	0.70	1	0.01
愛知県	336	1.76	9	0.05	132	0.73	974	5.35	255	1.40	15	0.08	31	0.17	105	0.58	3	0.02
三重県	292	4.00	-	-	56	1.24	445	9.89	118	2.62	4	0.09	38	0.84	39	0.87	-	-
滋賀県	98	1.85	-	-	11	0.34	97	3.03	61	1.91	4	0.13	15	0.47	15	0.47	-	-
京都府	202	1.60	3	0.04	48	0.63	653	8.59	75	0.99	5	0.07	38	0.50	34	0.45	-	-
大阪府	529	1.74	12	0.06	114	0.58	1209	6.20	314	1.61	12	0.06	47	0.24	129	0.66	-	-
兵庫県	691	3.49	18	0.14	53	0.41	1054	8.23	275	2.15	8	0.06	67	0.52	118	0.92	5	0.04
奈良県	143	2.60	-	-	24	0.69	256	7.31	58	1.66	1	0.03	12	0.34	16	0.46	-	-
和歌山県	125	2.50	-	-	14	0.45	195	6.29	22	0.71	-	-	8	0.26	25	0.81	-	-
鳥取県	223	7.69	-	-	54	2.84	213	11.21	42	2.21	3	0.16	10	0.53	19	1.00	-	-
島根県	85	2.24	1	0.04	4	0.17	113	4.91	27	1.17	20	0.87	13	0.57	19	0.83	-	-
岡山県	291	3.46	-	-	24	0.44	254	4.70	66	1.22	3	0.06	12	0.22	20	0.37	-	-
広島県	348	2.95	4	0.05	44	0.59	604	8.16	127	1.72	16	0.22	11	0.15	47	0.64	1	0.01
山口県	416	5.94	8	0.16	58	1.18	655	13.37	173	3.53	4	0.08	23	0.47	62	1.27	-	-
徳島県	151	3.97	1	0.04	14	0.61	139	6.04	38	1.65	2	0.09	5	0.22	12	0.52	3	0.13
香川県	237	4.65	2	0.06	40	1.25	161	5.03	99	3.09	9	0.28	21	0.66	20	0.63	1	0.03
愛媛県	176	2.75	1	0.03	65	1.67	368	9.44	76	1.95	1	0.03	25	0.64	34	0.87	-	-
高知県	86	1.76	-	-	32	1.03	215	6.94	64	2.06	36	1.16	7	0.23	13	0.42	-	-
福岡県	1194	6.03	-	-	210	1.75	1075	8.96	413	3.44	2	0.02	55	0.46	100	0.83	3	0.03
佐賀県	78	2.00	-	-	33	1.43	265	11.52	44	1.91	4	0.17	5	0.22	26	1.13	-	-
長崎県	413	5.90	1	0.02	34	0.77	199	4.52	99	2.25	-	-	30	0.68	13	0.30	6	0.14
熊本県	470	5.80	6	0.12	83	1.69	435	8.88	130	2.65	3	0.06	18	0.37	50	1.02	2	0.04
大分県	423	7.29	-	-	26	0.72	398	11.06	69	1.92	-	-	10	0.28	41	1.14	1	0.03
宮崎県	603	10.05	1	0.03	50	1.35	617	16.68	138	3.73	-	-	12	0.32	50	1.35	-	-
鹿児島県	96	0.98	4	0.07	28	0.47	645	10.75	213	3.55	15	0.25	11	0.18	38	0.63	-	-
沖縄県	180	3.10	2	0.06	11	0.32	56	1.65	164	4.82	8	0.24	-	-	14	0.41	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年13週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	101	0.03	177	0.06	421	0.14	4712	1.56	35	0.06	707	1.12	3	0.01	5	0.01	27	0.06
北海道	1	0.01	-	-	9	0.06	86	0.59	-	-	28	0.97	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	2	0.05	17	0.41	62	1.51	-	-	13	1.18	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	1	0.03	71	1.92	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	3	0.05	3	0.05	170	2.88	1	0.09	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	-	-	1	0.03	66	1.89	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	1	0.03	1	0.03	2	0.07	195	6.50	-	-	6	0.75	-	-	-	-	1	0.10
福島県	-	-	-	-	20	0.43	108	2.35	1	0.08	11	0.92	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	1	0.01	15	0.20	98	1.32	-	-	59	3.69	-	-	-	-	1	0.09
栃木県	-	-	1	0.02	-	-	118	2.57	-	-	21	1.75	-	-	1	0.14	1	0.14
群馬県	-	-	1	0.02	14	0.23	70	1.13	1	0.07	33	2.36	-	-	-	-	-	-
埼玉県	3	0.02	10	0.06	52	0.33	127	0.80	4	0.11	23	0.66	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	1	0.01	50	0.38	139	1.07	2	0.06	45	1.29	-	-	-	-	1	0.08
東京都	1	0.01	10	0.07	11	0.08	87	0.61	-	-	20	1.43	1	0.04	-	-	-	-
神奈川県	4	0.02	4	0.02	29	0.14	175	0.85	3	0.07	59	1.40	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	-	-	4	0.08	-	-	150	3.00	-	-	10	1.67	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	2	0.07	6	0.21	142	4.90	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.03	1	0.03	1	0.03	68	2.34	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	10	0.45	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.60
山梨県	-	-	-	-	6	0.24	94	3.76	3	1.00	2	0.67	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	-	-	145	2.69	-	-	27	2.70	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	0.02	-	-	17	0.36	60	1.28	-	-	7	0.64	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	-	-	22	0.26	221	2.57	-	-	10	0.50	-	-	1	0.10	-	-
愛知県	2	0.01	7	0.04	91	0.50	246	1.35	1	0.03	32	0.91	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	1	0.02	61	1.36	-	-	9	0.75	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	2	0.06	23	0.72	-	-	4	0.57	-	-	-	-	1	0.14
京都府	3	0.04	-	-	2	0.03	70	0.92	2	0.11	6	0.33	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	9	0.05	8	0.04	171	0.88	2	0.04	31	0.60	-	-	-	-	2	0.13
兵庫県	8	0.06	2	0.02	2	0.02	141	1.10	1	0.03	27	0.75	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	2	0.06	1	0.03	59	1.69	-	-	3	0.33	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	0.03	82	2.65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	7	0.37	34	1.79	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	6	0.26	22	0.96	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	2	0.04	1	0.02	107	1.98	-	-	7	0.58	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	6	0.08	1	0.01	96	1.30	-	-	21	1.05	-	-	-	-	2	0.10
山口県	1	0.02	12	0.24	1	0.02	36	0.73	-	-	40	4.44	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	3	0.13	-	-	65	2.83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	2	0.06	53	1.66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	8	0.21	-	-	84	2.15	1	0.14	22	3.14	-	-	-	-	1	0.17
高知県	-	-	2	0.06	1	0.03	20	0.65	-	-	5	1.67	-	-	-	-	4	0.50
福岡県	55	0.46	16	0.13	13	0.11	181	1.51	-	-	41	1.58	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	0.04	11	0.48	-	-	30	1.30	-	-	1	0.25	1	0.17	-	-	1	0.17
長崎県	-	-	7	0.16	-	-	57	1.30	13	1.63	15	1.88	-	-	-	-	1	0.08
熊本県	2	0.04	20	0.41	-	-	46	0.94	-	-	20	2.22	-	-	-	-	1	0.07
大分県	-	-	20	0.56	1	0.03	73	2.03	-	-	3	0.60	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	5	0.14	1	0.03	169	4.57	-	-	14	3.50	-	-	2	0.29	3	0.43
鹿児島県	3	0.05	2	0.03	1	0.02	176	2.93	-	-	3	0.50	-	-	-	-	-	-
沖縄県	2	0.06	1	0.03	2	0.06	148	4.35	-	-	6	0.60	-	-	1	0.14	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年13週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	65	0.14	6	0.01	12	0.03
北海道	2	0.09	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	7	0.58	1	0.08	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	3	0.30
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	2	0.15	-	-	-	-
東京都	-	-	1	0.04	3	0.12
神奈川県	-	-	-	-	5	0.45
新潟県	10	0.83	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	3	0.30	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	0.08	-	-	1	0.08
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.07	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	0.40	-	-	-	-
島根県	1	0.13	-	-	-	-
岡山県	7	1.40	-	-	-	-
広島県	2	0.10	-	-	-	-
山口県	1	0.13	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	1	0.20	-	-
愛媛県	3	0.50	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.07	-	-	-	-
佐賀県	2	0.33	-	-	-	-
長崎県	6	0.50	-	-	-	-
熊本県	4	0.27	-	-	-	-
大分県	2	0.20	-	-	-	-
宮崎県	2	0.29	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	3	0.43	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第13号 平成14年4月12日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。